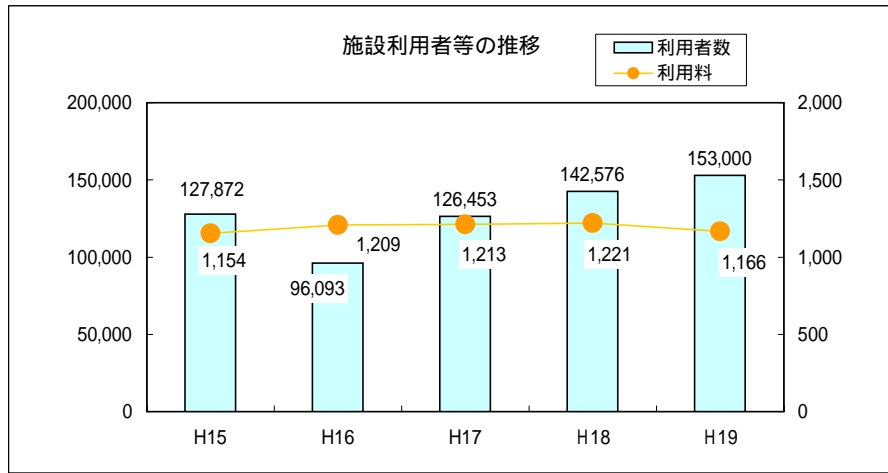


総合グリーンセンター(1/2)

広い芝生のグリーンパークや木々の緑豊かな都市公園！ 林業に関する試験研究機関

所在地	坂井市丸岡町楽間15		
設置年月日	昭和55年4月1日		
施設の種類	緑化植物園・公園および林業試験場	施設管理主体	県
設置の目的	県民がみどり豊かな自然環境の中で、みどりを愛し、みどりを生活の中に取り込んでいくために必要な知識や技術の普及と啓発活動を行い、もって県土緑化の推進に役立つことを目的としています。		
概要 (構造、面積、主な機能)	園内には都市緑化植物園(熱帯展示温室、みどりの相談所、季節の草花の展示温室等)とグリーンパーク(展示室や展望台があるウッドルームフクイ、北前船の展示やカラクリ時計があるウッドハウス九頭竜、大きな芝生広場や水上ステージのふれあい広場、ミニボート池、子供用遊具等)があり、園内には約1,150種で約75,000本の展示木が植えられています。また、林業試験部では、森林の育成、林業に関する特産物の開発、木材の開発等の研究を行っています。		
職員数	職員22人 非常勤嘱託7人 アルバイト5人 計34人		



利用状況の推移

来園者の多くは屋外の公園の利用が目的であり、年間来園者数はその年の天候に大きく左右される傾向にあります。

平成16年度は、春や秋の幼稚園や小学校の遠足シーズンの天候が不順であり、特に台風が福井県に3回接近したことや、ウッドルームの展示室が改修(6か月間)により利用できなかったことから、前年度に比べ25%減少しました。

平成18年度は、春や秋の幼稚園や小学校の遠足シーズンの天候に恵まれたこと、また、ウッドルームの展示室の改修が終了し、利用者数が伸びたことなどから、16年度に比べ約32%増加しました。

平成19年度も春や秋の幼稚園や小学校の遠足シーズンの天候に恵まれたこと、また、暖冬であったこと、また、緑の相談件数の36%増や、緑の教室の参加者も17%増などにより、18年度に引き続き来園者数は前年比約7%増加しました。

施設の特徴

緑化の推進

毎年、木と花と緑の知識と身近な緑づくりのための「みどりの教室」を開催しています。また、緑化に対する意識の高まりや近年のガーデニングブームから、緑に関する相談・指導を実施しています。

林業・木材の普及

森林整備の必要性や木の良さなどに対する理解促進を図るため、「フラワーグリーンフェア」等のイベント開催や「ウッドルーム」等の林業・木材に関する展示品を通じ、普及活動を展開しています。

林業試験研究

森林育成や特用林産、県産材の強度等林業や木材について、研究を行っています。



フラワーグリーンフェア'08 アートクラフト教室の様子



H20みどりの教室 緑の少年団 巣箱づくりの様子

平成19年度の特徴について

事業実績	みどりの教室	・開催回数および参加者数 単位:人	17年度	18年度	19年度
			14回、536人	17回、733人	17回、859人
	緑の相談業務	・相談件数 単位:件	17年度	18年度	19年度
			1,220	1,588	2,159
	イベント	・「グリーンフェア2007」を10月に開催(来園者 約18,000人)			
	試験研究部門	・森林林業・木材産業に関する技術向上や特用林産物の育成などの試験研究を行うとともに、開発された技術の県内林家等に対する普及に努めています。			
		・県内森林の健全育成と森林施業の体系化 天然記念物ナタオレノキの遺伝資源保存のため、挿し木増殖を実施 ナラ類集団枯損の加害害虫を粘着テープにより捕獲			
		・県産材の産地形成とブランド化の推進 県産スギの横架材利用のため講習会を実施 県産スギ材の強度試験を一般に公開			
		・特用林産物としてのキノコ、山菜等の地域特産化 新種登録されたキノコ「ふくひら2号」を施設栽培 在来種モジガサ(山菜)の実生苗を育成			

総合グリーンセンター(2/2)

行政コスト計算書(平成19年度) (単位:千円)

		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	247,223	53.1%	100.1%
	退職給与引当金繰入	8,219	1.8%	
	計	239,004	51.3%	96.2%
物にかかるコスト	物件費	148,358	31.8%	120.9%
	維持補修費	29,990	6.4%	123.4%
	減価償却費	48,460	10.4%	101.3%
	計	226,808	48.6%	116.4%
移転支出的なコスト		0	0.0%	
その他	公債費(利子)	0	0.0%	
	その他	0	0.1%	
	計	0	0.1%	
合計		465,812	100.0%	104.8%
収入	利用料等収入	1,165	0.3%	95.4%
	その他収入	3,719	0.8%	106.0%
	一般財源	460,928	99.0%	99.0%

バランスシート(平成20年3月31日現在) (単位:千円)

借方			貸方		
資産	前年比	負債	前年比		
有形固定資産	1,369,217 97.7%	固定負債	174,746 95.5%		
土地	926,539	退職手当引当金	174,746		
建物	21,260				
試験機器	409,658				
投資等	0	流動負債	0		
流動資産	0	正味資産	1,194,471 98.1%		
計	1,369,217 97.7%	計	1,369,217 97.7%		

主な指標 (単位:%、円/人)

	H19	H18	前年比
住民1人当たり有形固定資産額	1,679	1,712	98.1%
住民1人当たり将来負担額	214	224	95.7%
世代間負担率	87.2	86.9	100.4%

バランスシート、行政コスト計算書の特色

林業に関する試験研究や普及活動を行っているため、人件費(試験部門:9人、普及部門:7人)や試験研究のための設備に関する減価償却費などのコストが高くなっています。

平成19年度は、管理棟の漏水の修繕、グリーンパークの導水管の破損修繕、遊具や噴水の修繕などに緊急的に対応したため、平成18年度に比べ維持補修費が増えています。

林業・木材産業に関する模型などが展示されたウッドリームは、平成19年度には、小・中学校の遠足などで県内外93校が見学を訪れるなど有効に活用されています。

利用料等収入については、入園料が無料のため、収入は和室使用料など会議室等の施設利用料金のみとなっており、割合は少なくなっています。

施設の目的上、管理運営上、主要な事業

施設の維持管理(H20年度予算額:153百万円)
都市緑化植物園
・庭園や樹木の植栽
・熱帯展示温室
・緑の相談所や盆栽展示施設などの緑化施設
グリーンパーク
・林業普及展示施設「ウッドリーム」
・「ウッドハウス九頭竜」
・大型木造遊具などの遊具

普及活動[H19年度予算額:13百万円]
・県内先進情報の収集・発信
・緑の相談所における緑化相談

試験研究(H20年度予算額:10百万円)
施設内に林業に関する試験と研究を行う機関が設置されており、森林の造成管理、病害虫の研究、特用林産物・キノコの開発、県産材の新たな需要開発やバイオマス等に関する研究等を行い、県内森林の健全育成と森林施業の体系化、県産材の産地形成とブランド化の推

今後の課題

施設設置が昭和55年であり、各施設の老朽化が進んでいます。このため、利用者サービスとともに、施設利用者の安全管理が今後とも重要です。

林業試験研究・普及においては、県産材の有効活用方法や、特用林産物の研究等について、今後とも県民のニーズに的確に対応していく必要があります。

今後の事業方針、取り組み内容

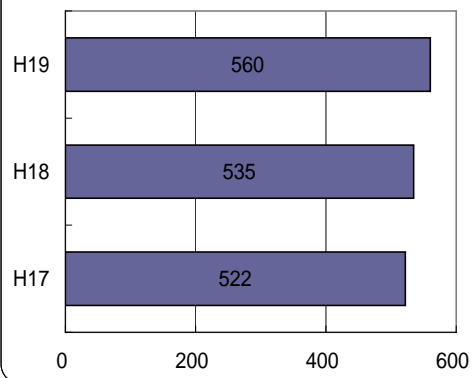
県民サービス第一主義を念頭において、県民に開かれた施設として適切に管理し、サービスの向上に一層努めます。

施設管理の充実
・来訪者の大部分が幼稚園や小・中学生の遠足や親子づれであることから、遊び池や噴水遊具等危険箇所の常時点検など園内全域の安全管理を徹底します。
・多種大量の樹木の管理を重要課題と位置づけ、今までに培われた技術を駆使し、適正な管理を行います。

サービスの充実
・熱帯展示温室は、花や果実のなる木など四季で楽しめる花木を植栽します。併せて、車イスでの利用に支障にならない通路を確保するなど、更に利用しやすく、楽しめる温室とします。
・県民に何度でも来園してもらえよう、緑の相談員等による来園者への案内など、ソフト面の充実を図ります。
・緑の相談員が近くの公的機関等で出張指導等を行います。

試験研究の充実
・研究と普及の一体化による、迅速な試験研究成果の技術移転およびPRを実施します。
・産学官が連携した共同研究をさらに推進します。

県民1人あたりのコスト負担の状況(円)



研究員一人当たりの研究課題数(H19)

